

学校の教職員構造の転換 ～チーム学校の推進～

- 我が国の教員の置かれている現状
1. 我が国の学校は教員以外の専門スタッフが諸外国と比べて少ない。▶教職員総数に占める教員の割合 日:82%、米:56%、英:51%)
 2. 児童生徒の個別のニーズが多様化しており、教員に求められる役割が拡大。
 3. 教員の1週間当たり勤務時間は日本が最長。▶日本:53.9時間(参加国平均38.3時間) 出典:『国際教員指導環境調査(TALIS)』

チーム学校の推進

- ・教員を中心に、多様な専門性を持つスタッフを学校に配置し、**学校の教育力・組織力を向上**。
- ・校長のリーダーシップの下、**教職員や様々な専門スタッフがチームとして適切に役割分担**。
- ・これにより、**教員は授業など子供への指導に一層専念**。



① 教職員(義務標準法で基幹的な教職員として規定):900人の新たな定数措置を実施。

チーム学校の推進 230人

- 学校マネジメント機能の強化 :100人
主幹教諭・事務職員の拡充
- 専門人材の配置充実 :100人
学校司書、ICT専門職員等の専門的な知見を有するスタッフを配置
- 養護教諭・栄養教諭等の配置充実 :30人

その他の定数改善 670人

- 授業革新等による教育の質の向上 :200人
従来のような受け身型の授業から、子供達が主体的・協動的に学ぶ課題解決型授業(アクティブ・ラーニング)への転換等を図る。
- 個別の教育課題への対応 :250人
- 学校規模の適正化への支援 :220人

② 資格等を有する専門スタッフ:学校の実情に応じ、補助金等により拡充。



スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置拡充 H27予算案:47億円(対前年度 2億円増)

1. スクールカウンセラーの配置拡充

○小中学校の相談体制の連携促進(200校→300校)

○貧困対策のための重点加配(600校)【新規】

(スクールカウンセラーの主な業務内容)

- ・児童生徒へのカウンセリング、教職員、保護者に対する助言・援助
- ・事件・事故等の緊急対応における児童生徒等の心のケア 等

2. スクールソーシャルワーカーの配置拡充

○配置数の増 1,466人→2,247人

○貧困対策のための重点加配(600校)【新規】

(スクールソーシャルワーカーの主な業務内容)

- ・福祉関係の関係機関・団体とのネットワークの構築、連携・調整
- ・保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供 等

※このほか、医療的ケアのための看護師の配置(H27予算案:約330人)などを計上

③ サポートスタッフ:学校の実情に応じ、補助金等により拡充。



学習サポーター H27予算案:41億円(対前年度 8億円増)

○配置人数 8,000人→10,000人

(主な業務内容)

- ・補充学習、発展的な学習への対応
- ・教材開発・作成など教師の授業準備や授業中の補助 等

運動部活動指導の工夫・改善支援 H27予算案:3億円(対前年度同)

(主な事業内容)

スポーツ医・科学の知見を有する者等の外部人材の活用や研修の場の整備等指導体制の充実を図る

※このほか、理科の観察実験補助員(H27予算案:3,100校)などを計上